『基礎物理学選書 26　連続体の力学』正誤表

（佐野　理 著，裳華房 刊）

（2020/12/14 現在）

第 3 版 17 刷（2020 年 4 月発行）にて修正済み　（誤→正）

頁	行・見出番号	誤（修正箇所）	正（修正・加筆方法）
66	脚注の下から 6	Δu	$\Delta \boldsymbol{u}$　［$\boldsymbol{u}$はボールド体］
80	3	横波	縦波
89	2	ひずみ u と応力 τ の関係式	ひずみと応力の関係式でひずみ

第 3 版 13 刷（2018 年 3 月発行）にて修正済み　（誤→正）

頁	行・見出番号	誤（修正箇所）	正（修正・加筆方法）
171	4	沿って集中した大きさ	沿って大きさ
172	下から 2	閉曲線の	閉曲線上の

第 3 版 12 刷（2015 年 1 月発行）にて修正済み　（誤→正）

頁	行・見出番号	誤（修正箇所）	正（修正・加筆方法）
124	5	(6.11 a, b, c)式	(6.11)式
125	4	となる．	を得る．

第 3 版 11 刷（2013 年 6 月発行）にて修正済み　（誤→正）

頁	行・見出番号	誤（修正箇所）	正（修正・加筆方法）
116	7-8 図	［図の説明の後に右記を追加］　（固体は静止）	
165	8	その上流側が高くなる	その凸側が上になる

第 3 版 10 刷（2012 年 6 月発行）にて修正済み　（誤→正）

頁	行・見出番号	誤（修正箇所）	正（修正・加筆方法）
150	8-20 図	横軸の 0 を 1 にする．	
		縦軸と横軸の交点に 0 を記入する．	
159	下から 2	$\partial \Phi / \partial t$	$\partial v / \partial t$　［vはボールド体］
173	9-14 図（b）	右端の曲線の脇に下向きの矢印を追加する．	

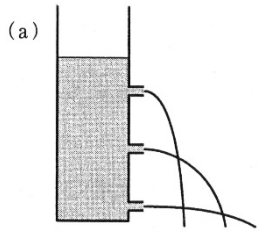
第 3 版 9 刷（2011 年 8 月発行）にて修正済み　（誤→正）

頁	行・見出番号	誤（修正箇所）	正（修正・加筆方法）

37	式（3.17）	$f(x-vt), g(x+vt)$	$f(z-vt), g(z+vt)$
38	下から 11	接線応力 f によるモーメント $\delta x \times (fS)$ とつり合っている.	接線応力 f を用いて $\delta x \times (fS)$ とも表される.
54	7	div v	div u
128	下から 9，5	クウェット流	クエット流
136	式（8.46）	$v=$	$v_0=$
	下から 11	$v \to 0$	$v \to v_0$

第 3 版 8 刷（2010 年 9 月発行）にて修正済み　（誤→正）

頁	行・見出番号	誤（修正箇所）	正（修正・加筆方法）
83	下から 2	深さ 10000m	深さ 10000m（1.0×10^4m）
84	下から 5	重量	重さ
86	§6.2 の 3 行目	§2.1 で	§1.2 で
94	下から 2	$\Delta p / l$	$-\Delta p / l$
220	［問題 13］2 行目	a / z	$\lvert a / z \rvert$

図の修正	85 頁　6-4 図(a)  主な修正点：円柱の上部の線を消す.

第 3 版 7 刷（2009 年 7 月発行）にて修正済み　（誤→正）

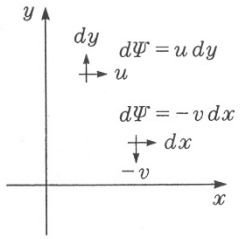
頁	行・見出番号	誤（修正箇所）	正（修正・加筆方法）
30	序文 11 行目	伝幡	伝播
100	4	$(\delta u,, \delta v, \delta w)$	$(\delta u, \delta v, \delta w)$
104	下から 7	クウェット流	クエット流
189	下から 2	強さ $-m$	強さ m

第 3 版 5 刷（2007 年 3 月発行）にて修正済み　（誤→正）

頁	行・見出番号	誤（修正箇所）	正（修正・加筆方法）
12	8	（図(c)参照）	（図(b)，(c)参照）

38	3-7 図（a）	［右下の］ $f(x)$	$f(x+\delta x)$
149	§8.5 の 4 行目と 6 行目	μUL	μUa
159	例題 1 の 3 行目	満たしていたとする．	満たしていたとする（一様重力 g）．
165	7	一様な定常流	水平方向に一様な定常流
169	5	「ベクトル dr 」の r をボールドタイプ（太字）にする．	
184	2	「$d\Psi = v_n ds$ または」を削除する．	
188	8	したがって，	$z = re^{i\theta}$ とおくと，
194	3	$x-y$ 平面で $x=$ 一定， $y=$ 一定という長方形領域（9-24 図(a)の斜線部）は， $\Phi-\Psi$ 平面では双曲線で挟まれた斜線部の領域に写像される（図(b)参照）．	$x-y$ 平面で双曲線で挟まれた斜線部の領域（9-24 図(b)の斜線部）は， $\Phi-\Psi$ 平面では $\Phi=$ 一定，$\Psi=$ 一定という長方形領域に写像される（図(a)参照）．
198	8	$(ds\cos\theta, -ds\sin\theta)$	$(ds\cos\theta, ds\sin\theta)$
210	第 3 章［問題 5］の 4 行目	＝0 の根で	＝0 を満たし
217	12	μUL	μUa

図の修正	184 頁　9-21 図



（b）

主な修正点：ϕ を大文字にする．

第 3 版 2 刷（2004 年 3 月発行）にて修正済み　（誤→正）

頁	行・見出番号	誤（修正箇所）	正（修正・加筆方法）
190	式（9.50）	「， $v_\theta = -U\sin\theta$ 」を削除する．	
208	5	$-\dfrac{v_\theta}{r^2\sin\theta}\Bigg)$	$-\dfrac{v_\theta}{r^2\sin^2\theta}\Bigg)$
	7	$-\dfrac{v_\phi}{r^2\sin\theta}\Bigg)$	$-\dfrac{v_\phi}{r^2\sin^2\theta}\Bigg)$

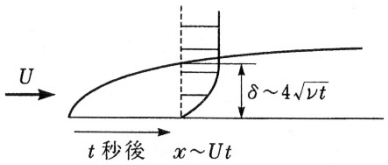
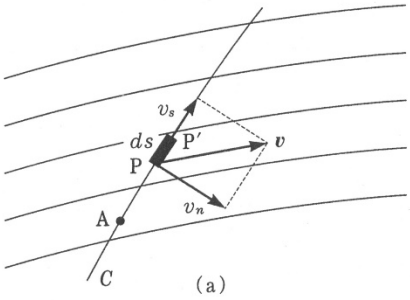
第 3 版（2003 年 6 月発行）にて修正済み　（誤→正）

頁	行・見出番号	誤（修正箇所）	正（修正・加筆方法）
115	§7.8 の 5 行目	熱流束	熱流
122	§8.2 の 8 行目	z 成分は	z 成分は，外力を圧力にくり込んであるとして
123	式（8.11b）	ずれる場合：$u=\dfrac{U}{2h}y$，$\alpha=0$	ずれる場合で $\alpha=0$：$u=\dfrac{U}{2h}y$
133	（3）の 9 行目	0 をボールドタイプ（太字）にする．	
136	下から 11	$v=0$ を満たすためには前述のような	$v=0$ と $r\to\infty$ で $v\to v_0$ を満たすためには前述のような
139	下から 4	とよばれる	とよばれる（これについては p.184～185 も参照）
140	下から 1	z で積分	$\bar{z}$ で積分
150	下から 3	を考え．	を考え，
171	式（9.18）	（$r>0$）	（$r>a$）

第 2 版（2002 年 6 月発行）にて修正済み　（誤→正）

頁	行・見出番号	誤（修正箇所）	正（修正・加筆方法）
62	下から 2	4-10 図	4-11 図
99	式（7.1）	末尾の n をボールドタイプ（太字）にする．	
107	7-4 図	［右図の横軸］　t	x
108	5	加速度	速度
112	下から 4	単位時間に v だけ面を移動させる	面にある流体を単位時間に v だけ移動させる
113	下から 13，12	熱流束	熱流
118	§8.1 の 1 行目	圧縮性の無視できる粘性流体	密度が一定の粘性流体
119	式（8.4）	$v'=\dfrac{v}{U'},\ldots$	$v'=\dfrac{v}{U},\ldots$
	下から 4	（8.1），（8.2）式を	（8.1），（8.3）式を
125	式（8.17）	$+i\omega t\}$	$+i\omega t]\}$
	式（8.18a）	$t<0$	$t\leqq 0$
	式（8.18b）	$t\geqq 0$	$t>0$
129	下から 2	（8.23）の左辺の慣性項と粘性項の	（8.23）式の慣性項と右辺の粘性項の
147	式（8.79b）	$\sqrt{\dfrac{\nu U_\infty}{x}}$	$\sqrt{\dfrac{\nu}{U_\infty x}}$
	式（8.80）	$ff'=$	$ff''=$

152	4	$\rho U^2 L$	$\rho U^2 L^2$
171	下から 3	近づけ，同時に	近づけ,
	下から 1	実体をもつ“渦度に集中した領域”	実体をもち“渦度が紐状に集中した領域”
172	3	紐状に分布した	曲線的に分布した
213	下から 3	接線応力は	接線方向の力は
214	2	＝0 とすると	＝0，また流体領域内で速度が有限とすると
217	5	$=\dfrac{\partial u}{\partial \eta}\dfrac{d\eta}{dx}=$	$=\dfrac{du}{d\eta}\dfrac{\partial \eta}{\partial x}=$
226	下から 7	熱流束	熱流

図の修正	127 頁　8-7 図	184 頁　9-21 図
	 主な修正点：放物線の形	 主な修正点：● P と● P‘を削除する.